

サッカークラブ以上の存在

スペイン北東部に位置し、フランスと国境を接するカタルーニャ。サグラダ・ファミリアで有名なバルセロナを州都とするカタルーニャは独自の言語や文化を持ち、スペイン人ではなく「カタルーニャ人」としての民族意識を強く持っている。スペイン内戦後に誕生したフランコ独裁政権による圧政を始め、長らく中央政府に弾圧されてきた歴史から、独立運動が盛んな地域でもある▼2017年10月1日にはカタルーニャ自治州の独立を問う住民投票が行われ、約9割が賛成票を投じた。当時のプチデモン州首相は独立国家となる権利を得たと宣言するなど独立の機運が高まったが、中央政府が無効と判断し事実上破綻。州政府は独立を目指す姿勢を崩していないが州内の世論は二分され、不安定な状況が続いている▼カタルーニャに本拠地を置くサッカーチーム、FCバルセロナのホーム戦では、毎試合前半17分14秒になると観客が一斉に「in-de-pendencia! (独立を!)」と声を上げる。これは1714年にカタルーニャが陥落し、自治権を失ったことに由来する。また、首都マドリードのチーム、レアル・マドリードとの一戦は「エル・クラシコ (伝統の一戦)」として凄まじい熱を帯びる。カタルーニャ人にとって自分たちの存在や感性を表現する最良の手段がサッカーであり、フランコ独裁政権の支持を受けていたレアル・マドリードは、今も昔も変わらず絶対に倒すべき相手なのである▼辛く苦しい歴史を持つカタルーニャにおいて、FCバルセロナはアイデンティティの象徴であり続ける。「スポーツに政治を持ち込むな」とよく言われるが、複雑な歴史、民族感情が渦巻くカタルーニャでは、それは綺麗事に過ぎないのかもしれない。